

# 学部・研究科等の現況調査表

## 教 育

平成22年6月

広島大学

## 目 次

1 2. 総合科学研究科

1 2-1

## 1 2 . 総合科学研究科

II	分析項目ごとの水準の判断 . . . . .	1 2 - 2
	分析項目 V 進路・就職の状況 . . . . .	1 2 - 2

## II 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目V 進路・就職の状況

#### (1) 観点ごとの分析

<b>観点 関係者からの評価</b>
--------------------

(観点に係る状況)

本研究科の教育では、主体的な学習を多面的に促す取組がなされており、文系・理系の境界を越えた総合的な能力やスキルの養成が期待できる。さらに、文理融合型リサーチマナー養成プログラムでは、講義主体でなく学生主体の討論などを中心に据えて、自分の能力を発揮する場を設けており、これらの内容を学生が身につけることで、就職先や進路先等からの修了生への評価も高くなるものと考えられる。

具体的な評価については、平成20年3月に博士課程前期の最初の修了生が、また、平成21年3月に博士課程後期の最初の修了生がそれぞれ出たばかりであり、いずれも就職してからの期間が短いため、関係者から確たる評価を受ける状況にはないと考える。

しかし、本研究科就職委員会が企業セミナーに参加した際や、企業の採用担当者が本研究科を訪れた際には、本研究科の教育について説明し、その内容についての評価を求めるなど、積極的に情報を収集している。それらの情報によると、近年の企業活動においては、高い専門性だけでなく総合的な能力も求められる状況にあり、本研究科における教育に対する企業関係者からの評価は高い。このような状況は、本研究科の教育が社会の要請に適合していることを示すものであると言える。

#### (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

博士課程前期修了後の進路について見ると、修了時に確定していない者が少なくない。しかしながら、それらの多くが進学準備中あるいは公務員を志望している者であることを考慮すれば、本研究科前期課程の教育が学生の研究への志向性や職業意識を高める上で有効であったことが推察される。また、企業への就職については、前述「観点 関係者からの評価」にあるとおりいまだ確たる評価を得る状況にはない。しかし、本研究科における教育に対する企業関係者からの評価は高く、修了生の将来における高い評価が期待できる。